

## 海と山のアート回廊企画：折元立身「パン人間」パフォーマンス

尾道と福山・鞆の浦を舞台にした現代アート事業「海と山のアート回廊」が9月16日（土）から開催されます。特別企画として折元立身によるパン人間パフォーマンスを2017年9月23日（土）に実施します。

尾道駅前を出発し、尾道の街を歩き回ります。

尾道大学の学生は、パフォーマンスという美術の表現手法を初めて経験し、また今回は観る側ではなく体験する側になるという方々など、総勢30名で実施します。

開始前にはしまなみ交流館で折元によるレクチャー、そして装着する様子も撮影いただけます。

ぜひこの機会に取材いただきますよう、お願いいたします。

担当：大橋  
090-7506-0011

# TATSUMI ORIMOTO PROJECT HIROSHIMA, 2017

パフォーマンス・アーティストとして、ヴェネチア・ビエンナーレをはじめ現代美術の前線で40年以上にわたり、国際的な活動を繰り広げてきた折元立身の作品は、考えるアートではなく感じるアート。人を驚かせるユニークな発想に満ちています。1969年に渡米、71年ニューヨークへ移住し、77年に帰国後、90年代には言葉の通じない国々でフランスパンを顔一面に付けた「パン人間」の路上パフォーマンスで注目を集めます。90年代後半には、アルツハイマー型認知症の母を介護する日々の生活をテーマに、力強くユーモラスな「アート・ママ」シリーズが始まりました。折元の作品はさまざまな世界中の人々（道行く人、入院している人、おばあさんたち）の即興的なふれあいを通して生まれます。生きとし生けるものとのコミュニケーションをアートにするという独自の世界を開拓し続けています。

| 2017.9.23 |

### パフォーマンス「パン人間」in尾道

#### Bread Men in Onomichi

パンは西洋文化の象徴であり、神である。

なぜなら、西洋画の「最後の晚餐」で描かれるように、キリストは「パンは肉なり、ワインは血なり」と言い、パンをちぎって弟子に与え、「これはわたしの身体である」と伝えた。

私はパンに西洋文化を感じ、パンを顔につけて、からだの一部をつくるというヒントを得た。

時にヨーロッパではパフォーマンスをやるか、「お米でやらないのか？」と問われる。私は日本人で、お米は日本では神だからやらない。

「パン人間」は日本人だからこそ出来るパフォーマンスなのだ。

折元立身

実施日：9月23日（土）

時間：13:00に尾道駅前をスタート、15:00頃終了。

場所：尾道駅前を出発し、船で向島へ、その後商店街を歩き回ります。



※折元立身プロジェクトは、海と山のアート回廊の特別企画として実施します。

その他、尾道市立美術館や、尾道の浄土寺、アートベース百島などでもアートな出会いを創出しています。

会期：2017年9月16日（土）～11月12日（日）

Webサイト：[www.arthiroshima.jp](http://www.arthiroshima.jp) E-mail：[info@arthiroshima.jp](mailto:info@arthiroshima.jp) Phone：090-7506-0011 担当：大橋



30 Bread Men in the Bayside Place Fukuoka, 1992



Bread Men at Toyama Prefectural Museum of Art and Design, Toyama, 2017



15 Bread Men at Newcastle to the BALTIC, U.K.



Bread Men in Yama, Fukuoka, 2004



Bread Man in a City at Sao Paulo, Brazil, 1991